

5. 実証研究で得られた成果

【柳井商工高校】

(1) 委員のコミュニティ・スクールや学校に対する理解促進と当事者意識の醸成について
柳井商工のコミュニティ・スクールの目的は、「地域と共生し、地域を支える人材を育成する学校づくり ～地域と協働、共汗する学校運営の推進について～」である。またその柱を次の5つとした。

- ① 柳井商工高校の持つ専門性を生かし、地域との協働を行うことにより、地域の活性化に貢献するとともに、学校経営の充実に努める
- ② 商工連携、商業、工業、教員の持つ専門性を生かし、地域ニーズに応える地域連携（まちづくり）を行う
- ③ 地域、企業、異校種の学校、他学科、PTAと幅広く連携をすすめていくことにより、相互の発展に努める
- ④ 地域連携（まちづくり）を行うことにより、生徒の地域への愛着を高め、将来地域の発展を担う人材を育成する
- ⑤ 生徒の学校運営協議会への参加により、生徒の主体性、主権者意識を高める

上記5点と学校チャレンジ目標について、学校運営協議会委員の方々に十分な説明を行い、理解いただくことにより、様々な角度から指導・助言をいただき、必要に応じて協力をいただいた。また、学校運営協議会を行うにあたっては、地域連携教育エキスパート（CSマイスター）、県教委事務局と企画委員会を開き、事前に会議が効果的に行われるよう協議を行うことで、会議の目標を明確化した。

学校運営協議委員の方々には、より学校を知っていただくために、授業参観や分科会方式をとったミニ熟議を行うことで、教員・生徒と触れ合う時間を確保した。また、ありのままの学校を見ていただくため、文化祭の準備風景を参観していただいた。このことから、コミュニティ・スクールの方針や学校経営参画者としての視点から御意見をいただけるようになったと考えている。

(2) 地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の充実について

商業、工業、そして商工という専門性を生かした地域伝統工芸「柳井縞」への取組や小学校へのプログラミング教室など、このことに関わった生徒達は、自己有用感・自己肯定感が醸成され、思考力・判断力・表現力が備わったと感じている。令和元年度生徒商業研究発表大会では、そのレポート、プレゼンテーションが高く評価され、山口県大会で優勝し、中国大会では優秀賞を受賞した。

(3) 持続可能な校内組織体制と学校全体が関わる仕組みの構築

生徒会役員においては、委員の方々と接することにより、企画や行事運営の工夫のヒントをいただき、独創的な企画を次々と学校行事に取り入れ、生徒全員の学校への帰属意識を高めた。特に生徒会役員においては、自分たちの意見がこの学校運営協議会を通して反映されることにより、より自己有用感や主体性が生まれ、主権者としての意識も徐々にではあるが芽生えつつある。また、生徒総会の意義や生徒会の在り方についても理解が深まっている。

教員においては、学校運営協議会に携わる中で、生徒の成長を感じるとともに外部の意見を聞くことで、視野が広がり資質向上につながっていると考えている。

(4) 次年度に向けて

今年度1年目ということもあり、新鮮な感覚で運営を行ってきたが、来年度は、学校運営協議会の定着を図ることとマンネリ化しない内容にする工夫が必要であると考えている。今年度、学校運営協議会委員の方々には学校の事を理解していただく「共感」の関係には至ったと考えるが、まだ一つの事に対して協働する「共汗」の関係までには至っていない。生徒、教員、学校運営協議会委員、地域の方々が一つの取組を全員で行うといった教育活動の充実が来年度の課題である。

【厚狭高校】

- (1) 委員のコミュニティ・スクールや学校に対する理解促進と当事者意識の醸成について
厚狭高校では、「地域に貢献できる人材の育成」に向けたカリキュラム・マネジメントの実現に資する、地域による学校への支援体制づくりを研究テーマとした。そこで、普通科と総合家庭科を併置する学校の特色を生かし、地域の課題解決や地域の活性化に向けた研究活動やボランティア活動、キャリア教育等の一層の充実につながるカリキュラム・マネジメントの実現に向けて、学校運営協議会の機能を生かし、地域との効果的な連携・協働体制の構築を図ることとした。
第2回学校運営協議会において、生徒による学校プレゼンテーションに続き、地域連携教育エキスパートから熟議の意義やポイントを解説していただいた上で、委員・生徒・教職員による熟議を行うことで、学校の強みや課題を委員に理解していただくとともに、今後の地域連携活動の在り方について様々なアイデアをいただくことができた。
- (2) 地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の充実について
第3回学校運営協議会において、第2回協議会で行った熟議の内容を振り返りながら、来年度の学校経営方針として、厚狭小学校・厚狭中学校が掲げるスローガン「誰かのために何かのために」を同校でも掲げ、共有することで、小・中・高がそれぞれの成長段階に応じた内容で「ふるさとを愛し、社会に貢献する人材の育成」に取り組むことが了承された。また、その後の熟議では、同校が今年度行った地域連携活動を振り返り、各活動の充実・改善策や新たな取り組みのアイデア等を生み出すことができた。
また、地域内の厚狭小学校・厚狭中学校の校長を委員として迎えるとともに、両校の学校運営協議会会長を兼任している委員が本校委員会の会長にも選出されたことから、小中高が連携した取組のより一層の充実を図ることができた。
加えて、学校運営協議会当日はもとより、事前の企画会議、事後の振り返りにおいて、地域連携教育エキスパートや県教委事務局職員から様々な指導助言をいただくことで、各会議や委員が参加する行事等を円滑に実施することができ、何よりも、委員の学校運営への協働意識が高まっていく様子を感じられ、県教委による委員へのアンケートでも、肯定的な評価をいただくことができた。
- (3) 持続可能な校内組織体制と学校全体が関わる仕組みの構築
第1回学校運営協議会において、今後の主な協議内容として、
① 地域や学校・学科の特性を生かした特色ある学校づくりについて、めざす学校像、育てたい生徒像及び学校の課題を共有
② 特色ある学校づくりに資する厚狭高校ならではの取組の充実に向けた効果的な学校運営協議会の運営方法の策定
③ 持続可能な学校と地域の連携・協働体制の構築に向けた体制づくりの検討、成果指標の検討及び成果の検証
を示すとともに、生徒側の課題だけでなく教員の時間外勤務の状況など働き方改革に関する課題を共有し、③の「持続可能」への意識付けを強く行った。
- (4) 次年度に向けて
今年度の学校運営協議会は、学校の実態を知っていただくことに重点を置き、次年度の学校経営方針や地域連携活動のアウトラインの検討に関わっていただいた。そのため、学校運営協議会の活動が限られた教職員・生徒にしか伝わらず、「コミュニティ・スクール」としての動きが見えにくいという課題が見られた。
次年度は、委員からいただいた様々な意見やアイデアについて積極的に実現可能性を検討し、諸活動に反映すること、企画段階から生徒が関わることで生徒の主体性や自己有用感を育む活動を推進すること、積極的に広報活動を行うことなどで、厚狭高校らしいコミュニティ・スクールを生徒や保護者、地域に浸透させていきたい。

【山口県教育委員会】

県教育委員会では、地域や学校・学科の特性を生かした特色ある学校づくりに資する高校ならではの取組の充実に向けた効果的な学校運営協議会の運営方法に関するモデルプランの策定をめざした。

研究指定校の2校は、今年度、新たに学校運営協議会を設置した高校であることから、地域連携教育エキスパートを中心とした「実証研究委員会」を設置することで、モデルプランの企画立案及び実施の支援など、事業の総合的な推進を図った。

具体的には、「企画会議」→「学校運営協議会」→「振り返り」といった推進モデルを構築し、この中で、学校運営協議会の運営計画のPDCAサイクルを回すこととした。

こうして企画立案した学校運営協議会の運営方法に関するモデルプランを実施することにより、

- ① 委員のCSや学校に対する理解促進と当事者意識の醸成
 - ② 地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の充実
 - ③ 持続可能な校内組織体制と学校全体が関わる仕組みの構築
- の3点を見込まれる成果・効果として設定した。

成果検証の方法としては、両校の第3回学校運営協議会兼実証研究委員会において、学校運営協議会委員を対象としたアンケートによる意識調査を実施し、第3回実証研究委員会の「振り返り」において、その結果についての確認・検討を行った。

アンケートの意識調査の結果のまとめは以下のとおりであった。

① 「委員のCSや学校に対する理解促進と当事者意識の醸成」についての質問項目			
柳井商工高校		厚狭高校	
肯定的意見	否定的意見	肯定的意見	否定的意見
100%	0%	100%	0%
② 「地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の充実」についての質問項目			
柳井商工高校		厚狭高校	
肯定的意見	否定的意見	肯定的意見	否定的意見
100%	0%	100%	0%
③ 「持続可能な校内組織体制と学校全体が関わる仕組みの構築」についての質問項目			
柳井商工高校		厚狭高校	
肯定的意見	否定的意見	肯定的意見	否定的意見
100%	0%	100%	0%

※ 対象：学校運営協議会委員（教職員を含まない）…柳井商工高校10名・厚狭高校6名

「① 委員のCSや学校に対する理解促進と当事者意識の醸成」の成果については、アンケートの関連質問（質問5-2「要因は何か？」※複数回答可）の結果（「学校運営方針の説明」を選択した割合…柳井商工高校80%、厚狭高校93%）から、第1回学校運営協議会における「学校運営方針の説明」が、両校ともに大きく関係していることが分かった。

また、昨年度の調査研究事業の成果をもとに、両校において、委員と生徒による熟議や委員と教職員による熟議を実施した。この熟議も、アンケートの結果（「分科会での課題共有」「熟議」を選択した割合……柳井商工高校80%、厚狭高校100%）から、この成果に大きく関係していたと判断される。

以上のことから、学校運営協議会の各委員が学校運営のビジョンを共有した上で、委員や教職員、生徒が議論する場を設定するというモデルプランが、特色ある学校づくりに向けた学校運営協議会の活性化に有効であることが分かった。

こうして活性化した学校運営協議会で出された「地域の伝統工芸の活用」の提案や「地元商店との商品開発」への助言を、実際に両校の教育活動に生かしていったことが、「② 地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の充実」という成果につながったと考えている。

加えて、生徒や地域連携教育担当教諭以外の教職員が「熟議」に参加したことにより、課

題の共有や当事者意識の醸成が学校運営協議会の委員以外にも広がり、「③ 持続可能な校内組織体制と学校全体が関わる仕組み」が構築された。

また、「事前に企画会議で協議することで、効率的に準備できた」「振り返ることで、自分とは違った視点で課題を発見することができた」等といった両校の学校長からの意見から、モデルプランの策定に向け、県教育委員会が構築した「企画会議」→「学校運営協議会」→「振り返り」といった推進モデルが、新規設置校における学校運営協議会の運営面での不安を取り除き、課題の発見・共有や改善策の協議等、推進支援体制として有効であったと判断される。

「企画会議」は、実証研究委員会委員のうち学校運営協議会の会長・副会長、研究指定校の校長・教頭・事務長、地域連携教育エキスパート、県教委事務局職員が実施し、柔らかな雰囲気の中、学校運営協議会の円滑な進行と深化を図るために協議した。さらに「振り返り」では、地域連携教育エキスパートを中心に、学校運営協議会の運営上の課題点の指摘や他県・他校種での取組を踏まえた運営改善案が提案され、そうした改善案を踏まえながら学校運営協議会を重ねていくことが、学校運営協議会の委員の積極的な発言や活発な協議を促すなど学校運営協議会の活性化につながったと考えている。

学校運営のPDCAの要となる学校運営協議会自体にPDCAサイクルを取り入れた入れ子構造の推進モデルは、学校運営協議会の新規導入時における支援体制としてだけでなく、今後、学校運営協議会を導入してからの時間の経過にともなう硬直化や形骸化に対する、改善・充実のための方策としても期待できる。

【参考】 アンケート質問事項 ※回答状況については各校の成果物の中に記載

質問1 学校運営協議会において、育てたい子ども像やめざす学校像等に関する学校運営協議会のビジョンが共有できたか。

1 大いにできた 2 できた 3 あまりできなかった 4 まったくできなかった

質問2 学校運営協議会において、学校運営への助言や生徒への指導について協議することができたか。

1 大いにできた 2 できた 3 あまりできなかった 4 まったくできなかった

質問3 本校は、地域の教育資源（人材、施設、自然等）を活用した特色ある教育活動が行われているか。

1 大に行われている 2 行われている 3 あまり行われていない
4 まったく行われていない

質問4 本校は、地域との連携・協働を行うための校内組織が整っており、一部の担当者のみでなく、学校全体が関わる仕組みができていると感じたか。

1 大いに感じた 2 感じた 3 あまり感じなかった 4 まったく感じなかった

質問5-1 学校運営協議会に参加を重ねることで、コミュニティ・スクールや学校に対する理解が深まり、学校と協働して活動する気持ちが高まったか。

1 はい 2 いいえ

質問5-2（※質問に「はい」と答えた方にお伺いします。）

その要因として考えられるものは何ですか。（複数選択可）

（柳井商工高校）

- 1 学校運営方針の説明
- 2 分科会での課題共有
- 3 生徒による学校説明
- 4 協議会で出された意見・提案の学校運営への反映についての説明
- 5 授業参観

6 学校行事（文化祭）への参加

（厚狭高校）

- 1 学校運営方針の説明
- 2 校内案内
- 3 生徒による学校紹介と学習成果の発表
- 4 生徒を交えた熟議
- 5 大学訪問研修への参加
- 6 学校関係者評価・来年度学校経営ビジョンの説明
- 7 教職員を交えた熟議

【参考】企画会議・振り返りで出された主な意見

- 第1回学校運営協議会では、各委員の得意分野や強みを紹介しあう。
- 第1回学校運営協議会で、学校評議委員と学校運営協議会委員の違いを説明する。
- 毎回の学校運営協議会で、CSの意味や学校運営協議会の機能を校長が繰り返し説明することで、委員の当事者意識を醸成する。
- 学校の課題や地域の課題を学校運営協議会で共有する必要がある。
- 第2回学校運営協議会で、生徒が学習成果や学校生活についての発表をする。
- 第2回学校運営協議会で、生徒や教職員を交えた熟議を行う。
- 第3回学校運営協議会での学校関係者評価の提示の仕方に工夫が必要。
- 第3回学校運営協議会で、次年度に向けた取組について熟議を行い、課題の共有や協働体制の確立を目指す。
- 学校運営協議会からの提言や助言のどう学校運営に反映されているか委員に説明する。